

# 九州半導体人材育成等コンソーシアム ( 第6回会合 )

～ サプライチェーン強靱化ワーキンググループ 報告～

1. 2024年度活動報告
2. 2025年度の活動方針案

2025年3月25日  
＜ サプライチェーン強靱化WG ＞  
座長  
鈴木 清己



# サプライチェーン強靱化ワーキンググループ（WG） 構成機関

**サプライチェーン強靱化WG：座長 鈴木 清己 氏（株式会社スズキ 代表取締役社長）**

2025年3月25日時点

産業界	1	株式会社アウトソーシング
	2	旭化成エレクトロニクス株式会社
	3	株式会社アルプス物流
	4	エア・ウォーター株式会社
	5	SMC株式会社
	6	NRS株式会社
	7	株式会社荏原製作所 熊本事業所
	8	株式会社オジックテクノロジーズ
	9	株式会社九州日新
	10	株式会社くまさんメディクス
	11	興研株式会社
	12	株式会社SUMCO
	13	株式会社ジーダット
	14	Japan Advanced Semiconductor Manufacturing株式会社
	15	株式会社ジャパンセミコンダクター
	16	株式会社スズキ
	17	ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング株式会社
	18	株式会社タケンタ
	19	中央電子工業株式会社
	20	TXOne Networks Japan合同会社
	21	株式会社テラプロープ
	22	株式会社デンケン
	23	株式会社デンソー
	24	東京エレクトロン九州株式会社
	25	東京応化工業株式会社
	26	株式会社ヒサノ
	27	株式会社西村ケミテック
	28	日清紡マイクロデバイスAT株式会社
	29	株式会社日出ハイテック
	30	平井精密工業株式会社
	31	株式会社平山GL
	32	株式会社藤田ワークス
	33	マイクロカット株式会社
	34	三井不動産株式会社
	35	三菱電機株式会社 パワーデバイス製作所
	36	三菱マテリアル株式会社
	37	株式会社安川電機
	38	横河ソリューションサービス株式会社
	39	吉川工業株式会社
	40	ラピスセミコンダクタ株式会社 宮崎工場
	41	ラムリサーチ合同会社
	42	ルネサスエレクトロニクス株式会社
	43	ロジスティード九州株式会社

行政機関	44	福岡県
	45	佐賀県
	46	長崎県
	47	熊本県
	48	大分県
	49	宮崎県
	50	鹿児島県
金融機関	51	北九州市
	52	福岡市
	53	熊本市
	54	財務省長崎税関
	55	国土交通省九州運輸局
	56	国土交通省九州地方整備局
	57	経済産業省（本省）
	58	株式会社大分銀行
	59	株式会社熊本銀行
	60	株式会社佐賀銀行
協力機関	61	株式会社西日本シティ銀行
	62	株式会社日本政策金融公庫
	63	株式会社日本政策投資銀行 九州支店
	64	株式会社肥後銀行
	65	株式会社福岡銀行
	66	株式会社三菱UFJ銀行
	67	株式会社山口フィナンシャルグループ
	68	大分県LSIクラスター形成推進会議
	69	公益財団法人北九州産業学術推進機構
	70	一般財団法人九州オープンイノベーションセンター
	71	公益財団法人九州経済調査協会
	72	一般社団法人九州経済連合会
	73	公益財団法人九州先端科学技術研究所
74	一般社団法人熊本県工業連合会	
75	公益財団法人佐賀県産業振興機構	
76	国立研究開発法人産業技術総合研究所 九州センター	
77	独立行政法人中小企業基盤整備機構 九州本部	
78	独立行政法人日本貿易振興機構 福岡貿易情報センター	
79	明倫国際法律事務所	

◇ **2024年度 活動報告及び2025年度活動方針**

- ① **企業間連携の深化と拡大**
- ② **新たなビジネスモデル構築**
- ③ **グローバルサプライチェーンへの対応**

◇ **スケジュール案**

## ◇ 2024年度 活動報告及び2025年度活動方針

- ① 企業間連携の深化と拡大
- ② 新たなビジネスモデル構築
- ③ グローバルサプライチェーンへの対応

## ◇ スケジュール案

# 2024年度活動概要

## 現状と課題

- 2021年4月以降、公表・判明分だけで100件・4兆7,400億円超の新規投資が計画。※1  
台湾をはじめ国内外のメーカーやサプライヤーが九州に注目（進出）。※1) 6月末時点 九州経済産業局調べ。金額は公表済のみ  
⇒ 九州域内への展開に加えて、グローバルサプライチェーンへの参入が課題
- サプライチェーンの新規参入には、価格や技術的な差別化による競争優位が不可欠だが、  
中小企業単独では難しく、「産学連携」「産産連携」などのアライアンスが効果的。【2022年度調査結果】  
⇒ 上記実現のためには深い相互理解・信頼関係が大前提。“顔が見える関係づくり”が重要
- 国内におけるI C生産の5割超が九州で生産※2。サプライチェーンの強靱化を通じて供給責任を果たす必要。  
※2) 生産金額ベース。九州経済産業局「九州地域の鋳工業動向」  
⇒ 企業機密の取扱いに留意しつつ、災害等の非常時を想定したBCPに九州で取り組む

## 2024年度の主な活動

### ① 企業間連携の深化と拡大

- 企業間交流会（SIIQ主催）への参加【継続】
- 九州域外との連携・マッチング支援（東北地域、中国地域）【継続】
- BCP/物資安定供給WSの開催（九州域外との連携も視野）【拡充】

### ② 新たなビジネスモデル構築

- 九州の半導体産業バリューチェーン構築WSの開催（ビジョン、戦略策定）【拡充】
- 九州域内・域外、グローバルサプライチェーンへの参入支援（マッチング、ハンズオン）【新規】

### ③ グローバルサプライチェーンへの対応

- サイバーセキュリティやGXに関する情報の発信（双方向セミナー）【継続】
- 台湾と産業交流（SEMICON台湾への参加）【継続】

### 活動におけるポイント

- ・ビジネスの継続
- ・目指すべき姿の認識
- ・顔が見える関係性の構築
- ・共通認識を持ち理解促進

上記を意識し、オール九州で取組  
また、他地域への展開も検討

# 2025年度 活動方針 企業間取引の推進・サプライチェーンの強靱化

## 現状と課題（2024年度までの事業より抽出）

- 2021年4月以降、公表・判明分だけで126件・4兆7,900億円超の新規投資が計画。※1  
⇒ 九州への投資が進む中で、地場企業がいかにこの投資効果を取り込むことができるか。  
⇒ 地域の産学官金が連携をして、地場企業がサプライチェーンに参入するための取組が必要。※2
- 九州は高付加価値の半導体を多く生産しており、国内におけるIC生産額の約5割※2が九州で生産。顔の見える関係性の構築を通じてサプライチェーン強靱化を図り、有事の際にも供給責任を果たすことのできる体制構築が急務。実証、改善を重ねながら、平時・発災時とも機能する半導体関連の九州物流モデルの確立を目指す。
- グローバルサプライチェーンへの参入を行う際に重要なテーマ（GX、サイバーセキュリティ等）について、情報を発信し、理解促進・取組の加速化を図る必要がある。

※1）3月末時点 九州経済産業局調べ。金額は公表済のみ

※2）生産金額ベース。九州経済産業局「九州地域の鉱工業動向」

## 2025年度の主な活動（方針）

### ① ビジネス創出・拡大に向けた取組

- 九州域内の大手企業と地場企業等との連携、マッチング（チャレンジマーケット等）【**拡充**】
- 技術的な課題解決に向けた産学官の検討の場の開催（テーマ別ワークショップ等）【**継続**】
- 九州域外事業との連携・マッチング支援（レガシー製造装置の機能維持等）【**継続**】

### ② 企業間連携によるネットワークの構築

- 企業間交流会（SIIQ主催）への参加（SIIQ会員交流会）【**継続**】
- 企業の競争力強化と災害リスク対応を両立する共同物流網の構築（九州モデルの実証・確立）【**拡充**】

### ③ グローバルサプライチェーンへの対応

- グローバルサプライチェーンで求められる情報発信（双方向セミナー）【**拡充**】※GX、サイバーセキュリティ、CN、PFAS 等
- 海外との交流等を活かした相互の情報発信（日本・台湾半導体技術国際シンポジウム 等）【**継続**】

## ◇ 2024年度 活動報告及び2025年度活動方針

- ① 企業間連携の深化と拡大
- ② 新たなビジネスモデル構築
- ③ グローバルサプライチェーンへの対応

## ◇ スケジュール案

# 企業間交流会

## 開催概要、結果報告

- 九州地域における半導体産業ネットワークの拡大を目指し、企業・団体とのネットワーク形成・連携を目的として、開催。
- 視察先企業の多大なご協力をいただき、事業への理解を一層深めることができた。
- 9割を超える参加者の皆様から「とても有意義だった」とのコメントをいただいた。

### ラピスセミコンダクタ（株） 宮崎第二工場

- ◆ 開催日：2024年10月18日（金）
- ◆ 参加者：63名
- ◆ 実施内容(プログラム)
  - 1) ラピスセミコンダクタ（株）事業内容のご紹介
  - 2) 工場見学
  - 3) ご講演（宮崎県の人材育成の取組みについて 宮崎大学）
- ◆ 実施状況



- ◆ 参加者からのご感想（抜粋）
  - ・半導体工場の見学機会は貴重で、非常に有意義だった
  - ・現場を実際に見て考える機会を得て感謝している
  - ・今回のようなイベントをもっと増やしてほしい

### ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング（株）

### 長崎テクノロジーセンター

- ◆ 開催日：2024年11月1日（金）
- ◆ 参加者：72名
- ◆ 実施内容(プログラム)
  - 1) ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング(株) 事業内容のご紹介
  - 2) 工場見学
- ◆ 実施状況



- ◆ 参加者からのご感想（抜粋）
  - ・最先端工場を見学させていただき、大変興味深く、勉強になった
  - ・多様な業種の方と情報交換でき、貴重な機会だった
  - ・工場の構造まで見学できるのは、非常に良かった

# 九州物流網構築

## 企画概要

- 不確実な環境の中で**事業基盤のさらなる強化とリスクへの備え**が求められる
- 対応として、九州が一体となった**効率的な物流網構築（九州内外連携と共通化）**の検討を進める



# 九州物流網構築

## 考え方、ステップ

- **共同、協業、共通化**をコンセプトに**効率化、低コスト、環境負荷の低減**をメリットとした取り組みを実行していく
- 2025年度の進め方は、スモールスタート(取り扱い品目、エリア等)で骨格を決め、実証による確認/改善を行いながら、共同配送を開始する (launch)。また、九州域内への横展開を進める。

### コンセプト

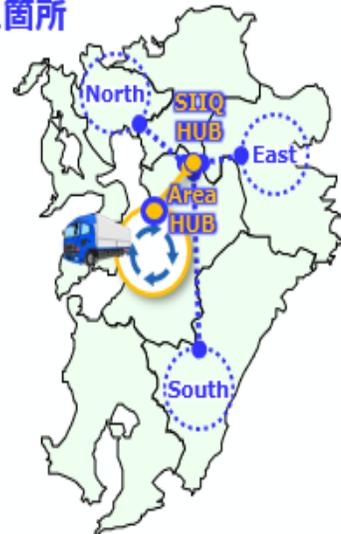
- ・幹線便：高積載率、車両削減による環境負荷削減  
九州外への貨物集約（空港、港、倉庫）
- ・エリア循環便：ラストワンマイル配送&リサイクル回収
- ・エリア拠点：幹線便/循環便ターミナル
- ・部材、車両位置管理

### メリット

- ・物流インフラの共用化：コスト削減
- ・地場物流会社の活用：1社で解決できない課題への対応
- ・新規立地企業サポート：既存インフラ活用
- ・共通オペレーションシステムの利用：情報の一元管理/共有化
- ・環境負荷削減：車両集約による温室効果ガスの排出削減

### Launch Target

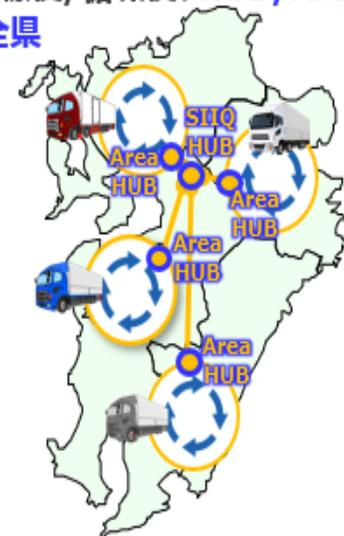
- ◇目指す姿 九州域内の**共同配送**開始
- ◇対象 **半導体関連 一般物**
- ◇機能 **幹線便/循環便、HUB/Area HUB**
- ◇エリア **1箇所**



2026年度 ~

### Final Goal

- ◇目指す姿 九州域内の**全拠点**配送開始
- ◇対象 **半導体関連全般 一般物/危険物/設備**
- ◇機能 **幹線便/循環便、HUB/Area HUB、自動化**
- ◇エリア **全県**



203X年度 ~

## ◇ 2024年度 活動報告及び2025年度活動方針

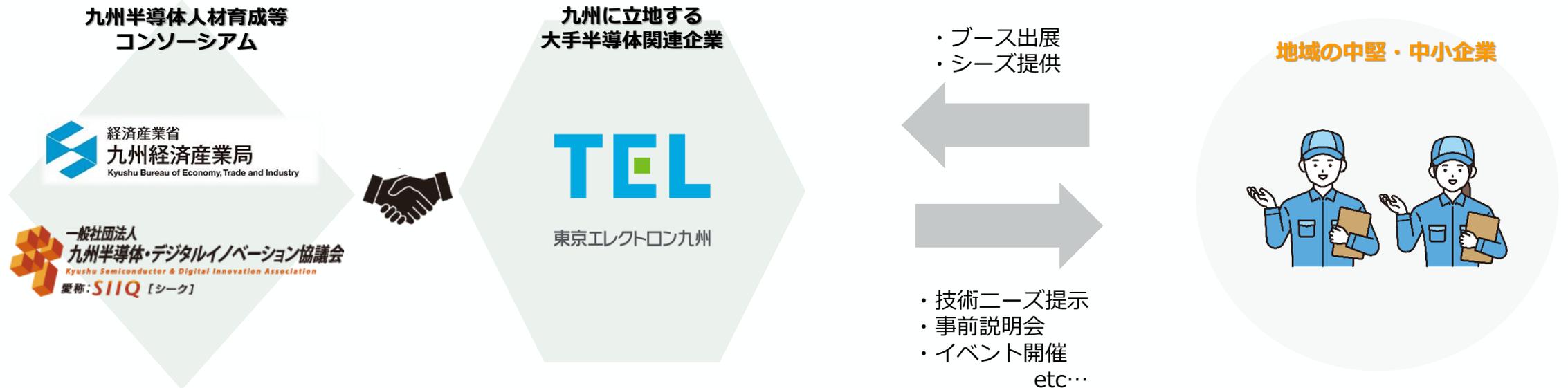
- ① 企業間連携の深化と拡大
- ② **新たなビジネスモデル構築**
- ③ グローバルサプライチェーンへの対応

## ◇ スケジュール案

# チャレンジマーケット2024

## 企画概要

- 九州に立地する大手半導体関連企業と、地域の中堅・中小企業を結ぶマッチングイベントを企画。
- 2025年1月29日、東京エレクトロン九州株式会社様の技術ニーズに基づくマッチングイベントを開催。  
69種の技術ニーズを発信。同社担当者より技術ニーズについて説明いただくオンライン説明会も実施。



# チャレンジマーケット2024

## ニーズ説明会

- 東京エレクトロン九州株式会社より、**69種の技術ニーズに関する補足説明**をいただくオンライン説明会を開催。
- **企業80社 107名**、教育機関2校 2名、行政機関4団体 6名、金融機関3行 7名、その他6団体 9名、**計131名**の申込み。
- 質疑応答では13件の質問が寄せられ、説明会参加者の疑問点解消を図る機会となった。

### ■ 概要

日 時： 2024年11月20日(水) 15:00~17:00

場 所： オンライン (Teams会議)

次 第： 1. 開会挨拶

(一社)九州半導体・デジタルイノベーション協議会 古賀事務局長

2. 御説明

東京エレクトロン九州株式会社 開発本部 制御技術開発部

チーフエンジニア 林様

3. 質疑応答

4. 閉会



# チャレンジマーケット2024

## 開催結果

- 2025年1月29日、東京エレクトロン九州株式会社 合志事業所において開催。**計31社**が出展。
- **東京エレクトロン九州株式会社**の開発部門をはじめとする各部門の**担当者約300名**※が来場。

### ■ 概要

日時：2025年1月29日(水) 11:00～15:30

場所：東京エレクトロン九州株式会社  
合志事業所 事務棟1階 311・312会議室

- 次第：1. 開会挨拶  
九州経済産業局 情報政策課  
課長 田口 賀徳
- 東京エレクトロン九州株式会社  
常務執行役員 伊藤 和彦 氏
2. 展示会 ※来場者数：延べ293名
3. 閉会挨拶  
九州半導体人材育成等コンソーシアム  
SC 強靱化WG 座長 鈴木 清己

### ■ 開会挨拶



九州経済産業局  
田口情報政策課長



東京エレクトロン九州  
伊藤常務執行役員

### ■ 閉会挨拶



九州半導体人材育成等コンソーシアム  
SC強靱化WG 鈴木座長

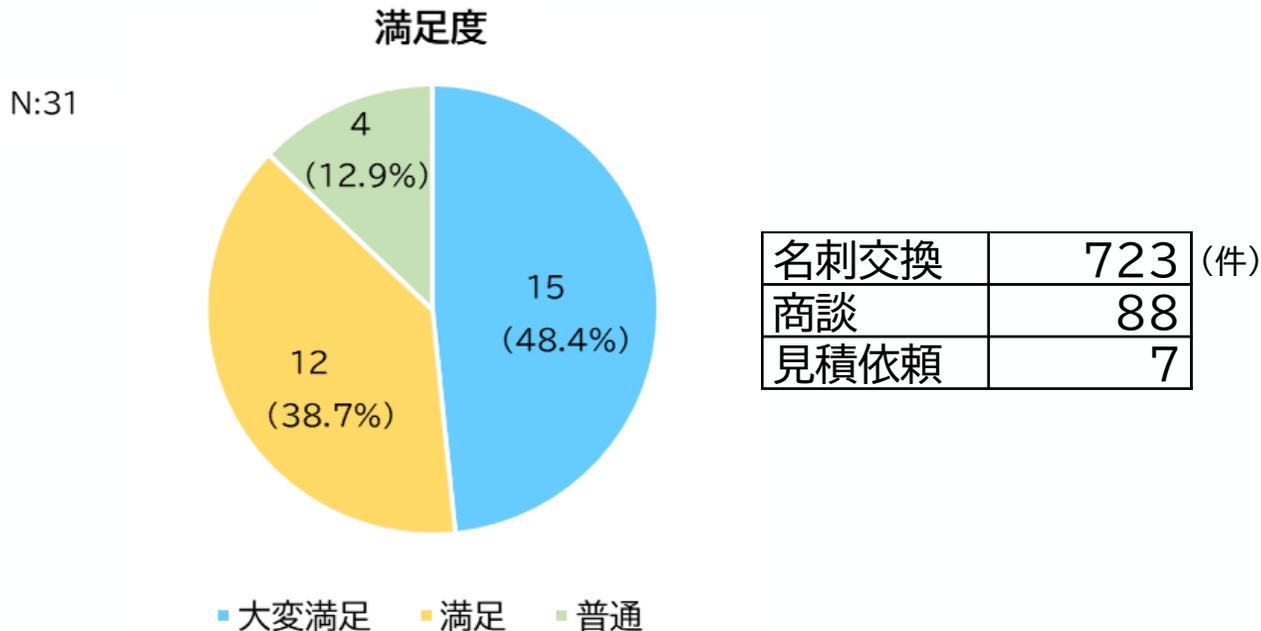
### ■ 会場の様子



# チャレンジマーケット2024

## アンケート結果（出展社）

- イベント終了後にアンケートを実施。出展企業全31社が回答。（回答率：100%）
- 本イベントに「大変満足した」「満足した」と回答した方は**87.1%**であった。
- 名刺交換数は**723件**、商談は**88件**、見積依頼は**7件**であった。



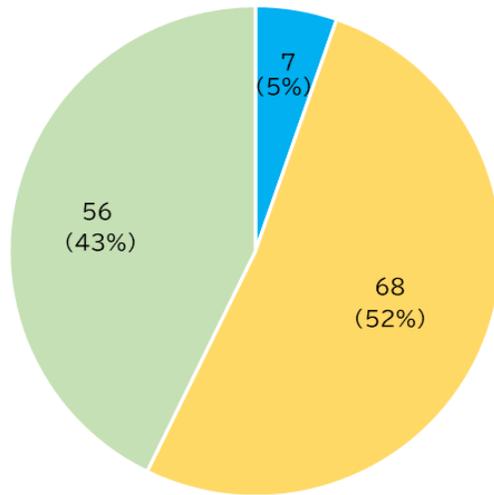
- 多くの開発担当者が来場され、普段やり取りのない担当者へも技術を知っていただく機会となりました。
- 事前ニーズを提示いただいたことで、ターゲット製品を絞ることができた。  
今回、狙いの開発担当者の目に留まり、今後の商談へ繋げていける見込みです。
- 来場人数に対して時間が少々短いかと思われました。
- 来場者が増えた際に、少し展示企業間の通路が狭く感じた。

# チャレンジマーケット2024

## アンケート結果（東京エレクトロン九州）

- 当日会場を訪れた東京エレクトロン九州社の担当者より、訪問した各社ブースに対する評価をいただいた。
- 同社が公開した69種の技術ニーズはどれも課題解決のハードルが高いとされている中、回答数131件中、出展企業が提案したシーズに対して、「課題解決に向けた可能性70%～（早々に連携を進めたい）」との回答が7件、「可能性31%～70%以上（連携を進めたい）」は68件であった。
- 事業化に向けた課題については、「コスト」が最多、次いで「精度」が挙げられた。

N:131



■ 71%以上(早々に連携を進めたい) ■ 31~70%(連携を進めたい) ■ 30%未満(見送りたい)

事業化に向けた課題	件数
コスト	62
納期	38
精度	41
安定供給	28
その他	
サイズ・形状（3D化、小型化）	5
必要性、国内調達	3
環境面、	2
パーティクル性能、プロセス性能	各1
性能、耐薬品性、利用頻度	各1
特になし、コメントなし	5

# チャレンジマーケット2024

## フォローアップ（議論の場） ※検討中

- アンケート結果から、継続的な議論で課題解決の糸口を見出すことのできる可能性がある技術課題が判明。
- 技術課題解決に向けて、優先度をつけてフォローアップ案件を選定。
- 案件の評価や規模に応じた適切な支援を検討。

### チャレンジマーケット

### フォローアップ案件選定

TEL・コンソーシアム（局・SIIQ）等にて実施

課題	出展社 ①	出展社 ②	出展社 ③	出展社 ④	評価
コスト	✓	✓	✓	✓	A
納期		✓			A
精度	✓		✓	✓	B
安定供給	✓			✓	B
その他				✓	C

順位①

順位②

各案件に共通する課題・出展企業の評価をもとに  
優先順位をつけてフォローアップ案件を選定

適切な支援を検討



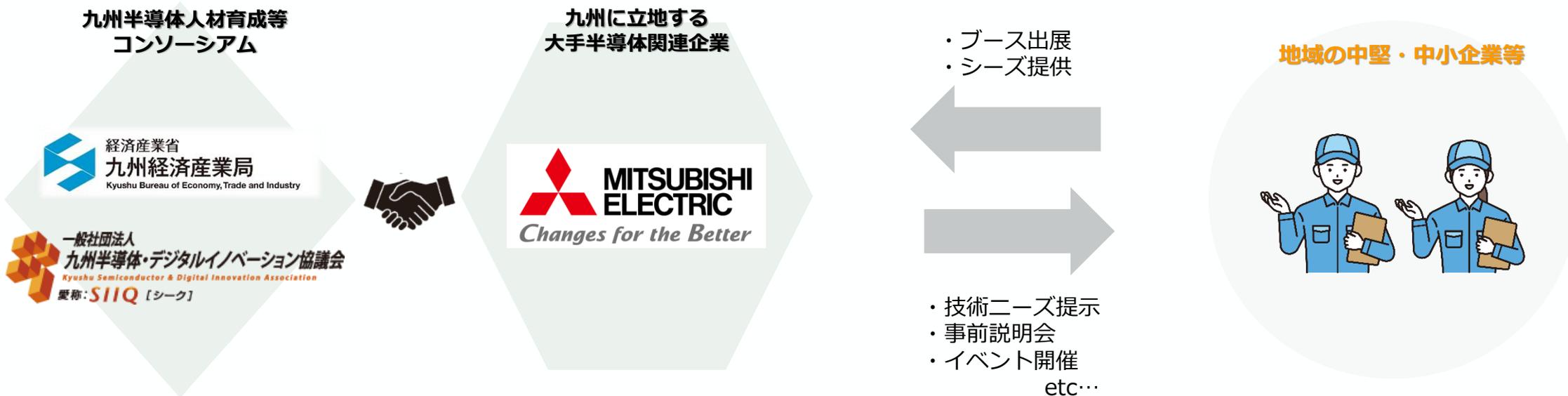
アンケート集計



# チャレンジマーケット2025

## 企画概要（案）

- 次年度は、三菱電機株式会社パワーデバイス製作所様の技術ニーズに基づくビジネスマッチングイベントとして、チャレンジマーケット2025を開催予定。
- 現在、実施内容について検討中。詳細は後日アナウンス。



## ◇ 2024年度 活動報告及び2025年度活動方針

- ① 企業間連携の深化と拡大
- ② 新たなビジネスモデル構築
- ③ **グローバルサプライチェーンへの対応**

## ◇ スケジュール案

# サイバーセキュリティセミナー

## 開催概要、結果報告

- サイバー攻撃が企業に与える中長期的な影響を理解し、ビジネス継続において脅威となるサイバー攻撃に対して「より深い理解」と「課題解決への気づき」を得ていただくことが目的。
- 2024年度は「物流分野におけるサイバーセキュリティ」をテーマに「物流分野（貨物自動車運送）における情報セキュリティ確保に係る安全ガイドライン」とインシデント事例を基にした重要なポイントについてご講演いただいた。

## 結果報告

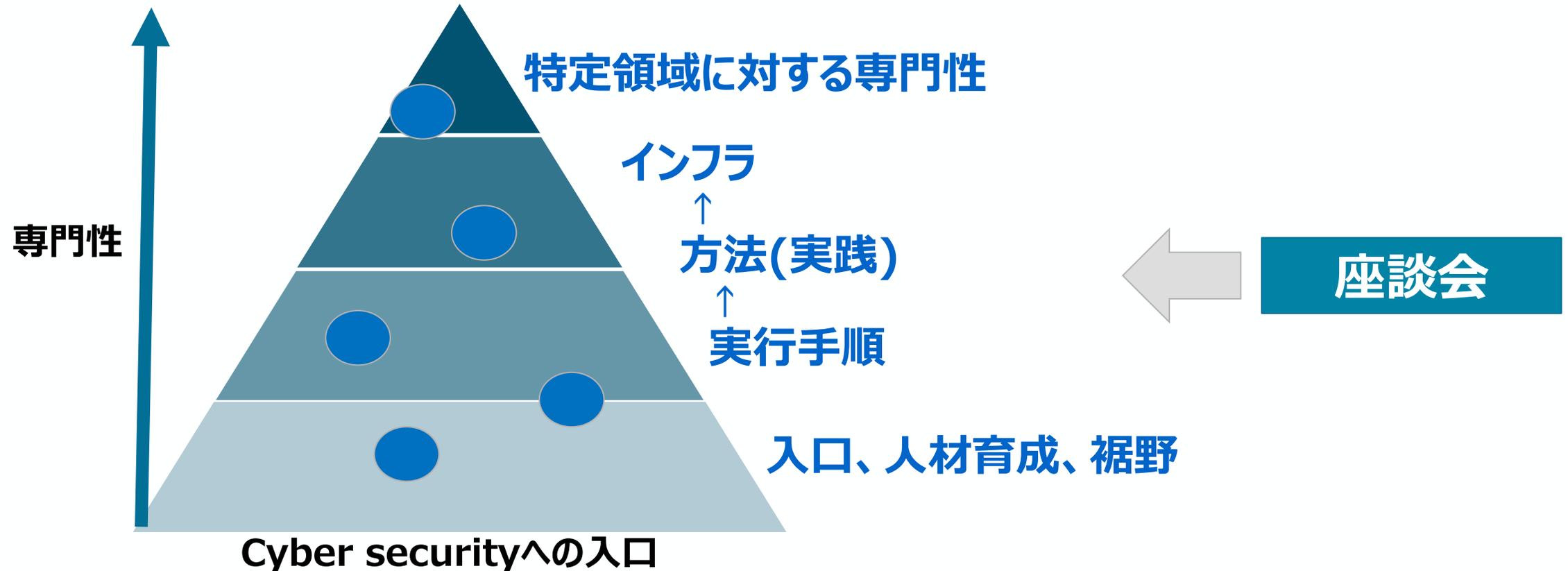
- ◆ 開催日時：2025年2月10日(月) 14：30～15：30
- ◆ 講師：TXOne Networks Japan合同会社 今野尊之様
- ◆ 開催形態：オンライン
- ◆ 参加者：24名
- ◆ アンケート結果
  - ・ インシデント事例についてはさらに詳細な攻撃手法や対策方法に関する要望があった。
  - ・ 国土交通省のガイドラインについてはセキュリティ対策の実施例や優先順位付け、進め方に対する関心が高かった。
  - ・ 課題としては対策実行に伴うコストや専門スキル不足、地域支援機関としての対応方法などが挙げられた。



# サイバーセキュリティ

## セミナー体系(イメージ)

中小企業はサイバーセキュリティに対する理解度が低い(格差あり)  
また、企業毎にビジネスの規模や課題認識により、対応内容と優先度に違いがある  
⇒企業に応じたセミナーを体系立てて実行することが有効



# 日本・台湾半導体技術国際シンポジウム

## 開催概要

- 海外との産業交流として、2023年9月に、SIIQ、九州大学、工業技術研究院(ITRI)、陽明交通大学との間で **MOUが署名されるなど関係が深化。**
- 2024年度の訪台では、上記のMOUに基づき、「セミコン台湾2024」において、産学官による「半導体技術国際シンポジウム」を開催(テーマ:半導体製造装置)。併せて、**現地教育機関や研究支援機関などを訪問。**
- 2025年度も現地関係機関等を訪問し、半導体分野における連携強化に向けた意見交換を予定。

### 9月4日

#### 【明新科技大学 訪問】

- 学生数は約1.3万人。うち、約2000人が留学生。
- 西日本工業大学、福岡工業大学とはMOUを締結済
- 半導体製造エンジニアのライセンスである「半導体検測工程鑑定士」の試験を台湾当局や企業と共同で実施。



#### 【日本・台湾半導体技術国際シンポジウム】

主催：九州半導体人材育成等コンソーシアム、SIIQ、工業技術研究院

テーマ：半導体製造装置サプライチェーンの現状把握と技術交流

#### 参加機関

日本：九州経済調査協会、九州大学、平田機工株式会社、株式会社マイスティア

台湾：工業技術研究院、陽明交通大学、明遠精密科技公司



ITRI・胡副院長



SIIQ・山口会長



コンソ・星野代表幹事

### 9月5日

#### 【工業技術研究院 (ITRI) 訪問】

- ITRI実験室の見学を行い、実験設備の性能や仕様に関する意見交換を実施。
- 今後の台湾と九州の技術連携可能性を模索



- ◇ 2024年度 活動報告及び2025年度活動方針
  - ① 企業間連携の深化と拡大
  - ② 新たなビジネスモデル構築
  - ③ グローバルサプライチェーンへの対応
- ◇ **スケジュール案**

# 2025年度 九州半導体人材育成等コンソーシアム SC強靱化WGスケジュール（案）

	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
全体		●7月 SC強靱化WG① ・今年度の取組説明	●10月頃 第7回全体会合  ●時期未定 SC強靱化WG② ・中間報告	●時期未定 SC強靱化WG③ ・年度最終報告  ●時期未定 第8回全体会合
1.ビジネス創出・拡大に向けた取組				
チャレンジマーケット	●企画調整		●時期未定 募集開始	●時期未定 本番  ●フォローアップ
テーマ別ワークショップ	●企画調整	●随時開催		
九州域外との連携	●企画調整 ●関係者との意見交換		●時期未定 本番	
2.企業間連携によるネットワークの構築				
会員交流会	●企画調整	●募集	●時期未定 本番①	●時期未定 本番②
九州物流網構築	●企画調整	●実証準備		●実証調査 (暫定) ●フォローアップ、事業化検討
3.グローバルサプライチェーンへの対応				
セミナー	●テーマ、講師等の確認、調整	●時期未定 セミナー①	●時期未定 セミナー②	●時期未定 セミナー③
海外との産業交流	●関係機関調整		●9月 日本・台湾半導体技術国際シンポジウム (SEMICON台湾)	●フォローアップ

**E.O.P.**